

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
整形外科 I (総論)	演習	1 単位 (30 時間)	2 年前期	関矢仁

授 業 概 要

運動機能や日常生活活動を障害する代表的な整形外科疾患の病因や病態生理、診断と治療の総論を学ぶことにより、整形外科疾患のリハビリテーションを行うために必要な基礎知識を修得する。

到 達 目 標

1. 運動器の構造と機能について説明することができる
2. 整形外科疾患に対する検査と診断の概要について説明することができる
3. 代表的な疾患の概要について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する
事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	○	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	骨	骨の構造・生理・生化学・発生・成長・維持・病態・病理、骨の修復と再生	関矢仁
2	月 日	関節	関節の構造・生理・生化学・病態・病理、関節軟骨の修復と再生	関矢仁
3	月 日	筋骨格の構造と痛み	骨格筋および神経の構造と機能、痛みの定義・分類・生理学・評価・治療	関矢仁
4	月 日	検査と診断	視診、触診、四肢の計測と筋力評価、神経学的検査、機能評価、画像検査、検体検査、生体検査、他	関矢仁
5	月 日	保存療法と手術療法	保存療法の種類（安静、薬物療法、徒手整復、牽引法、固定法、他） 整形外科領域における手術の特徴、特殊な器具を用いた手術（関節鏡、内視鏡、他）	関矢仁
6	月 日	軟部組織・骨・関節の感染症	軟部組織感染症、骨髄炎、感染性関節炎、その他の骨関節感染症	関矢仁
7	月 日	関節リウマチと類縁疾患	関節リウマチ、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛、突発性関節炎、線維筋痛症、他	関矢仁
8	月 日	変形性関節症と類縁疾患	変形性関節症、結晶誘発性関節炎、神経病性関節症、代謝異常症による関節疾患、他	関矢仁
9	月 日	四肢循環障害と阻血壊死性疾患	四肢循環障害をきたす疾患、外傷後血管障害、骨壊死、他	関矢仁
10	月 日	先天性骨系統疾患と先天異常症候群	先天性骨系統疾患の概要、先天異常症候群の概要	関矢仁
11	月 日	代謝性骨疾患	骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、腎性骨ジストロフィー、甲状腺機能異常、成長ホルモン異常、他	関矢仁
12	月 日	骨腫瘍	骨腫瘍の分類、原発性良性骨腫瘍、骨腫瘍類似疾患、原発性悪性骨腫瘍、続発性悪性骨腫瘍、他	関矢仁
13	月 日	軟部腫瘍	軟部腫瘍の分類、良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍	関矢仁
14	月 日	神経・筋疾患	中枢神経疾患、末梢神経障害、筋疾患	関矢仁
15	月 日	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの背景・定義・概念、評価と対策	関矢仁

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. 標準整形外科学 第 14 版 (医学書院) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、木曜日 (15 時～16 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	医師として医療機関に 10 年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
整形外科Ⅱ (各論)	演習	1単位 (30時間)	2年後期	関矢仁

授 業 概 要

整形外科Ⅰ (総論) で学んだ知識を踏まえ、人体の各関節における代表的な疾患や外傷に関する病態や診断、治療方法についてより詳細に学ぶ。また、各関節疾患のリハビリテーションを行うにあたり、留意すべき事項について理解する。

到 達 目 標

1. 各関節における代表的な疾患の病態について説明することができる
2. 各関節疾患における検査および治療について説明することができる
3. 各関節疾患のリハビリテーションを行う際に留意すべき事項について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する
 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	○	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	肩関節	肩関節の機能解剖、診察・検査法、肩関節の疾患 (先天異常、不安定症、変性疾患、関節症、スポーツによる障害、他)	関矢仁
2	月 日	肘関節	肘関節の機能解剖、診察・検査法、肘関節の疾患 (小児に好発する疾患、成人以降に好発する疾患、先天異常、他)	関矢仁
3	月 日	手関節と手	手の機能解剖、診察・検査法、手の疾患 (外傷、拘縮と変形、炎症性疾患、骨壊死、神経麻痺、循環障害、CRPS、腫瘍、先天異常、他)	関矢仁
4	月 日	頸椎	脊柱の機能解剖、診察・検査法、頸椎疾患 (斜頸、先天異常、変性疾患、炎症性疾患、破壊性疾患)	関矢仁
5	月 日	胸郭・胸椎・腰椎	胸郭・胸椎・腰椎の機能解剖、診察・検査法、疾患 (先天異常、変形、変性疾患、分離症、すべり症、炎症性疾患、腫瘍、他)	関矢仁
6	月 日	股関節	股関節の機能解剖、診察・検査法、股関節の疾患 (小児・成人の疾患) と手術	関矢仁
7	月 日	膝関節	膝関節の機能解剖、診察・検査法、膝関節の疾患 (半月板損傷、靭帯損傷、膝外大腿関節障害、関節症、炎症性疾患、腫瘍、他)	関矢仁
8	月 日	足関節と足	足関節の機能解剖、診察・検査法、足関節の疾患 (足部変形、麻痺、過剰骨障害、絞扼性神経障害、骨端症、無腐生壊死、外傷後足障害、他)	関矢仁
9	月 日	外傷総論	外傷の概要、捻挫と脱臼、骨折	関矢仁
10	月 日	軟部組織損傷	皮膚・皮下組織損傷、筋・腱損傷、血管損傷、靭帯損傷、区画症候群、挫滅症候群	関矢仁
11	月 日	骨折・脱臼	肩関節・上腕骨骨幹部・肘関節・前腕部・手の骨折と脱臼	関矢仁
12	月 日	骨折・脱臼	胸郭・骨盤・股関節・大腿骨骨幹部・膝関節・下腿骨・足関節・足部の骨折と脱臼	関矢仁
13	月 日	脊椎・脊髄損傷	脊椎と脊髄の解剖、脊髄損傷、脊椎損傷	関矢仁
14	月 日	末梢神経損傷	末梢神経損傷の病態・原因・診断・治療、代表的な末梢神経損傷	関矢仁
15	月 日	スポーツと整形外科	代表的なスポーツ外傷とスポーツ障害	関矢仁

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	3. 標準整形外科学 第14版 (医学書院) 4. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、木曜日 (15時～16時) 研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	医師として医療機関に10年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
理学療法学概論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	溝田勝彦

授 業 概 要

理学療法の定義や歴史、各種技術、関連法規、理学療法士が活躍するフィールドや理学療法の実際を学び、リハビリテーションに寄与する専門職としての理学療法士の位置づけを理解し、理学療法士を志すために必要な基本的態度を修得する。

到 達 目 標

1. 理学療法の定義と歴史を理解する
2. 理学療法に関連する法律を理解する
3. 理学療法士に求められる専門性を理解する
4. リハビリテーションにおける理学療法の位置づけを理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと

事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	○ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	理学療法とは	理学療法の定義、理学療法の各種技術、理学療法の歴史	溝田勝彦
2	月 日	理学療法士に関連する法律	国や地方自治体による法規、理学療法士及び作業療法士法	溝田勝彦
3	月 日	理学療法士の専門性①	理学療法士の使命と倫理観、理学療法の対象と領域	溝田勝彦
4	月 日	理学療法士の専門性②	理学療法士の臨床推論過程と臨床の実際	溝田勝彦
5	月 日	リハビリテーションの中の理学療法	医療施設・保健福祉施設・その他におけるリハビリテーションと理学療法	溝田勝彦
6	月 日	理学療法と障害	障害モデルと理学療法	溝田勝彦
7	月 日	理学療法士と教育・研究	我が国と世界の理学療法教育、理学療法と研究	溝田勝彦
8	月 日	総括	理学療法士としての将来	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. 理学療法概論テキスト 改訂第 3 版 (南江堂) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月曜日 (11 時～12 時)・火、金曜日 (15 時～16 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に 14 年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
理学療法管理学	講義	2単位 (30時間)	3年後期	溝田勝彦

授 業 概 要

質の高い理学療法が提供されるために必要な組織マネジメントについて理解することを目的に、職場の管理・運営やスタッフ教育、各種記録や報告書作成の意義や方法を理解するとともに、環境整備や事故対応策に関する知識、保険制度の仕組みなどについて学ぶ。

到 達 目 標

1. 組織の管理運営の意義や基本的な方法論について説明することができる
2. 理学療法業務に関連する各種制度について説明することができる
3. 職能団体の役割について説明することができる
4. 社会に求められる理学療法のあり方について考える

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと
 事後学修：授業の内容について理解できるよう、整理しておくこと

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	◎ (DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	管理・運営総論	部門管理の意義と管理者の役割、管理手法、OJTでの教育管理の基本原則、労務管理、管理者の力量と資質、リスクマネジメントと感染予防	溝田勝彦
2	月 日	医療の質と Patient Experience	SWOT分析、病院機能評価、PDCA (EPDCA) サイクル、EBM (EBPT) と NBM、Patient Experience	溝田勝彦
3	月 日	データ管理	診療記録、ビッグデータ収集、管理者ネットワークの意義	溝田勝彦
4	月 日	社会保障と保険制度	医療・介護の制度と報酬、政策とその形成過程、医療・介護の財政および制度と保険点数	溝田勝彦
5	月 日	身分法と職能団体	理学療法士の身分法とその職能団体、理学療法士の業務と政治活動の必要性	溝田勝彦
6	月 日	職域の拡大	職域拡大の現状と方向性	溝田勝彦
7	月 日	社会と理学療法	社会保障の方向性と理学療法のあり方、理学療法士養成の必要性と受給計画	溝田勝彦
8	月 日	まとめ	管理者としての未来	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. 理学療法管理学 良質な医療・介護提供のための管理運営・政策論 (南江堂) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、金曜日 (13時~14時)・木曜日 (17時~18時) 研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に14年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
理学療法臨床推論	講義	1 単位 (15 時間)	3 年後期	齊藤貴文

授 業 概 要

理学療法の実践に必要な臨床推論過程について理解を深めることを目的に、症候学と障害学を基盤とした症候障害学モデルについて学ぶ。また、実際の臨床現場における理学療法士の思考過程の解説を通して、科学的根拠・徒手的治疗・動作観察に基づく臨床推論の実践方法を理解する。

到 達 目 標

1. 理学療法の臨床思考過程の基礎を理解する
2. 代表的な疾患のクリニカルリーズニングを実践することができる
3. 自身が構築した推論過程を説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：事前に示された課題について資料を作成する
 事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	◎ (DP2)	(DP3)
DP	○ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	医学モデル (ICD、ICIDH、ICF)、治療とリハビリテーション (PM & R)	齊藤貴文
2	月 日	症候障害学	疾病の治癒過程、一次障害と二次障害、治療効果の判定	齊藤貴文
3	月 日	理学療法診断学を基盤とした病態鑑別	理学療法分野における診断的治療法と治療的診断法	齊藤貴文
4	月 日	徒手療法とクリニカルリーズニング	手動的な治療技術に基づいた推論過程	齊藤貴文
5	月 日	動作分析とクリニカルリーズニング	動作分析に基づいた推論過程	齊藤貴文
6	月 日	クリニカルリーズニングの実際①	代表的疾患に対する臨床推論の実際①	齊藤貴文
7	月 日	クリニカルリーズニングの実際②	代表的疾患に対する臨床推論の実際②	齊藤貴文
8	月 日	総括	EBM・NBM と理学療法士	齊藤貴文

評 価	筆記試験 (30%)、課題レポート (70%)
教科書	1. 配布資料 2. 症候障害学序説 (文光堂)
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	火、金曜日 (15 時～16 時)・木曜日 (13 時～14 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に 6 年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
理学療法技術学Ⅱ（各論）	講義	1単位 (15時間)	3年後期	齊藤貴文

授 業 概 要

器管系（感覚器系・リンパ系・結合組織・筋系・関節系・神経系）の症候に対する治療技術理論の概要を学ぶ。また、理学療法士が生涯にわたって治療技術の研鑽に努めることの意義について考え、自身の将来のキャリアに対する意欲の向上を図る。

到 達 目 標

1. 機能障害の改善を目的とした治療技術の必要性を理解し、説明することができる
2. 各種治療技術の背景となる理論を理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと
 事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	理学療法技術学総論	理学療法における構造的・機能的・包括的アプローチ、クリニカルリーズニング	齊藤貴文
2	月 日	感覚器系とリンパ系	触圧覚刺激法の理論、リンパ系に対する理学療法の理論	齊藤貴文
3	月 日	結合組織と筋系	マッスルペインリリーフ・筋膜リリース・筋膜マニピュレーションの理論	齊藤貴文
4	月 日	結合組織と筋系	マッスルエナジーテクニック・軟部組織モビライゼーション・マイオチューニングアプローチの理論	齊藤貴文
5	月 日	関節系	関節モビライゼーション (Kaltenborn-Evjenth Concept, Maitland Method, Paris)・マリガンテクニックの理論	齊藤貴文
6	月 日	神経系	神経系モビライゼーション・マイオセラピーの理論	齊藤貴文
7	月 日	その他	マッケンジー法・MSIアプローチ・ヤンダアプローチ・フェルデンクライスメソッドの理論	齊藤貴文
8	月 日	総括	理学療法士が治療技術の研鑽を続ける意義（グループディスカッション）	齊藤貴文

評 価	課題レポート（100%）
教科書	1. 系統別・治療手技の展開 改訂第3版（協同医書出版） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	火、金曜日（15時～16時）・木曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	選択
実務経験	理学療法士として医療機関に6年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
高次脳機能障害学	講義	1 単位 (15 時間)	3 年後期	玉利誠

授 業 概 要

脳の構造および機能を理解するとともに、脳損傷に起因する代表的な高次脳機能障害（Pusher 症候群・半側空間無視・失行症・記憶および注意障害・失語症）の病態・評価・理学療法・リハビリテーションについて学ぶ。

到 達 目 標

1. Pusher 症候群の病態・評価・理学療法について説明することができる
2. 半側空間無視の病態・評価・理学療法について説明することができる
3. 失行症の病態・評価・理学療法について説明することができる
4. 記憶および注意障害の病態・評価・理学療法について説明することができる
5. 失語症の病態・評価・理学療法について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする

事後学修：授業の内容について理解できるよう、整理しておくこと

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	高次脳機能障害の定義	玉利誠
2	月 日	Pusher 症候群	Pusher 症候群の病態・評価・理学療法・リハビリテーション①	玉利誠
3	月 日	Pusher 症候群	Pusher 症候群の病態・評価・理学療法・リハビリテーション②	玉利誠
4	月 日	半側空間無視	半側空間無視の病態・評価・理学療法・リハビリテーション①	玉利誠
5	月 日	半側空間無視	半側空間無視の病態・評価・理学療法・リハビリテーション②	玉利誠
6	月 日	失行症	失行症の病態・評価・理学療法・リハビリテーション	玉利誠
7	月 日	記憶および注意障害	記憶および注意障害の病態・評価・理学療法・リハビリテーション	玉利誠
8	月 日	失語症	失語症の病態・評価・理学療法・リハビリテーション	玉利誠

評 価	課題レポート（100%）
教科書	1. 高次脳機能障害に対する理学療法（文光堂） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	火曜日（13時～14時）・木、金曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	選択
実務経験	理学療法士として医療機関に5年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
疼痛理学療法学	講義	1単位 (15時間)	2年後期	齊藤貴文

授 業 概 要

痛みについて生物学的モデルと生物心理社会モデルの観点から理解を深め、痛みに対して治療的な理学療法から集学的なリハビリテーションまで幅広いアプローチを展開するための理論を学ぶ。

到 達 目 標

1. 痛みの神経生理学について理解する
2. 急性痛のメカニズムを理解し、生物学的モデルに基づいた痛みの治療展開について考えることができる
3. 慢性痛のメカニズムを理解し、生物心理社会モデルに基づいた痛みのマネジメント戦略について考えることができる
4. ペインリハビリテーションおよび慢性痛治療ガイドラインについて理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：提示した事前課題をまとめ、概要を整理しておく

事後学修：課題レポートをまとめる

対応	(DP1)	◎ (DP2)	○ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	痛みの疫学、定義、急性痛と慢性痛、生物学的モデルと生物心理社会モデル	齊藤貴文
2	月 日	痛みの基礎	痛みの神経生理学、炎症性疼痛、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛	齊藤貴文
3	月 日	痛みの評価	痛みの多面的評価、痛みの尺度・質問紙	齊藤貴文
4	月 日	急性の痛み	急性痛のメカニズムとその治療展開	齊藤貴文
5	月 日	慢性の痛み	慢性痛のメカニズムとそのマネジメント戦略	齊藤貴文
6	月 日	痛みの薬物療法・心理療法	痛みに対する薬物療法・心理療法の基礎	齊藤貴文
7	月 日	ペインリハビリテーション	ペインリハビリテーションの理論と実際	齊藤貴文
8	月 日	慢性痛治療ガイドライン	診療ガイドライン	齊藤貴文

評 価	課題レポート (100%)
教科書	1. 痛みの集学的診療：痛みの教育コアカリキュラム 2. ペインリハビリテーション入門 3. 配布資料
参考図書等	1. 慢性疼痛治療ガイドライン
留意事項	
オフィスアワー等	火、金曜日 (15時～16時)・木曜日 (13時～14時) 研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	選択
実務経験	理学療法士として医療機関に6年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生活環境論	講義	1 単位 (15 時間)	2 年前期	溝田勝彦

授 業 概 要
対象者の居住環境の制約を改善するために必要な基礎知識を修得することを目的として、住宅設計の基本や増改築に関する知識、福祉用具の知識、各種疾患特性に応じた適切な住環境整備の知識、住環境整備に関する行政や福祉制度の知識について学ぶ。

到 達 目 標
1. 地域社会の居住環境について説明することができる
2. 福祉用具の種類と法制度について説明することができる
3. 住宅改修及び福祉用具導入における理学療法士の役割について説明することができる
4. 高齢者・障害者の生活継続のために適切な住環境の整備について提案することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする
事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	住環境整備の意義	溝田勝彦
2	月 日	住環境整備の進め方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、住環境整備の進め方	溝田勝彦
3	月 日	住環境整備の進め方	住環境整備における理学療法士の役割	溝田勝彦
4	月 日	住環境整備と法制度	介護保険制度における住環境整備	溝田勝彦
5	月 日	福祉用具	福祉用具の種類と機能①	溝田勝彦
6	月 日	福祉用具	福祉用具の種類と機能②	溝田勝彦
7	月 日	住環境整備の実際	疾患別にみた住環境整備の実際①	溝田勝彦
8	月 日	住環境整備の実際	疾患別にみた住環境整備の実際②	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. PT, OT のための住環境整備論 第 2 版 (三輪書店) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月曜日 (11 時～12 時)・火、金曜日 (15 時～16 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に 14 年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
福祉住環境論	講義	1 単位 (15 時間)	2 年前期	溝田勝彦

授 業 概 要
各種福祉用具の名称や機能を理解するとともに、実際の体験を通して福祉用具の役割や意義について学ぶ。また、一部演習を通して、対象者の身体機能や生活環境の評価や評価結果に基づいた適切な福祉用具の選定方法について学ぶ。

到 達 目 標
1. 各種福祉用具の機能について説明することができる 2. 対象者の身体機能や生活環境を評価する方法について説明することができる 3. 対象者の身体機能や生活環境に基づいて適切な福祉用具を選定することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：テキスト、参考書で該当する内容を調べ、講義で理解する準備をする 事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	◎ (DP4)	○ (DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	各種福祉用具の種類と機能	溝田勝彦
2	月 日	福使用具の実際	各種福祉用具の体験①	溝田勝彦
3	月 日	福祉用具の実際	各種福祉用具の体験②	溝田勝彦
4	月 日	福祉用具の実際	各種福祉用具の体験③	溝田勝彦
5	月 日	福祉用具の選択	PBL①	溝田勝彦
6	月 日	福祉用具の選択	PBL②	溝田勝彦
7	月 日	福祉用具の選択	PBL③	溝田勝彦
8	月 日	総括	対象者の住環境福祉と理学療法士の関係	溝田勝彦

評 価	課題レポート (100%)
教科書	1. PT, OT のための住環境整備論 第2版 (三輪書店) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月曜日 (11 時～12 時)・火、金曜日 (15 時～16 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	選択
実務経験	理学療法士として医療機関に 14 年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生活技術学	講義	2 単位 (30 時間)	2 年後期	田中真一

授 業 概 要

理学療法士が関わることの多い代表的な日常生活動作（食事・整容・行為・入浴・排泄・移乗）の成り立ちについて理解するとともに、対象者の日常生活動作を適切に評価する方法について学ぶ。また、日常生活動作に役立つ自助具の名称や機能について理解し、対象者の機能障害や能力障害に応じて適切な自助具を提案するための基礎知識を学ぶ。

到 達 目 標

1. 日常生活動作(ADL)の概念を説明することができる
2. 代表的な日常生活動作の評価（BI・FIM）を実施できる
3. 代表的な日常生活動作に必要な運動の構成について説明することができる
4. 各種自助具の名称と機能について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと
 事後学修：授業の内容について理解できるよう、整理しておくこと

対応	(DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	日常生活活動(ADL)の概念、ADL と ICF、ADL と QOL	田中真一
2	月 日	総論	ADL 評価の目的と意義、ADL 評価の種類とポイント	田中真一
3	月 日	ADL の評価尺度	Barthel Index	田中真一
4	月 日	ADL の評価尺度	機能的自立度評価法 (FIM)	田中真一
5	月 日	自助具の種類と使用方法	各種自助具の種類と使用方法①	田中真一
6	月 日	自助具の種類と使用方法	各種自助具の種類と使用方法②	田中真一
7	月 日	ADL の評価の実際	食事動作の分析と評価	田中真一
8	月 日	ADL の評価の実際	整容・清拭動作の分析と評価	田中真一
9	月 日	ADL の評価の実際	更衣動作の分析と評価	田中真一
10	月 日	ADL の評価の実際	入浴動作の分析と評価	田中真一
11	月 日	ADL の評価の実際	排泄動作の分析と評価	田中真一
12	月 日	ADL の評価の実際	移乗動作の分析と評価	田中真一
13	月 日	ADL の評価の実際	事例を通した ADL 評価①	田中真一
14	月 日	ADL の評価の実際	事例を通した ADL 評価②	田中真一
15	月 日	総括		田中真一

評 価	筆記試験（100%）
教科書	1. 日常生活活動学テキスト改訂第3版（南江堂） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、木曜日（13時～14時）・火曜日（17時～18時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に11年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
地域理学療法学	講義	1 単位 (15 時間)	2 年後期	溝田勝彦

授 業 概 要

高齢者の身体機能および精神機能の特徴や加齢変化を理解するとともに、高齢者に対する理学療法評価や理学療法を実施する際のポイントについて学ぶ。また、高齢者を取り巻く地域社会の現状や現行の諸制度を理解するとともに、介護予防事業や介護保険下のサービス（入所リハビリテーション・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション）の概要と実際について学ぶ。

到 達 目 標

1. 高齢者の身体機能と精神機能の特徴について説明することができる
2. 高齢者に多い疾患特性を理解し、必要な理学療法評価や理学療法について理解する
3. 介護老人保健施設・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションの概要について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと
 事後学修：教科書と配布資料による復習を行うこと

対応	(DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	ライフステージと高齢者像、加齢に伴う心身機能の変化	溝田勝彦
2	月 日	老年症候群	老年症候群の概要と分類 フレイル、低栄養、摂食嚥下障害、尿失禁、認知症、うつ、睡眠障害、転倒、寝たきり	溝田勝彦
3	月 日	高齢者の生活機能評価	認知・精神機能の評価、日常生活動作の評価、生活環境の評価、QOL の評価	溝田勝彦
4	月 日	高齢者の健康寿命の延伸	介護予防の概要と実際	溝田勝彦
5	月 日	高齢者の理学療法	高齢者に対する理学療法のポイント	溝田勝彦
6	月 日	地域理学療法の実際	入所リハビリテーションサービスの概要と実際、理学療法士の役割	溝田勝彦
7	月 日	地域理学療法の実際	通所リハビリテーションサービスの概要と実際、理学療法士の役割	溝田勝彦
8	月 日	地域理学療法の実際	訪問リハビリテーションサービスの概要と実際、理学療法士の役割	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、金曜日 (13 時～14 時)・木曜日 (17 時～18 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に 14 年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
予防理学療法学	講義	1 単位 (15 時間)	3 年前期	溝田勝彦

授 業 概 要

健康寿命の延伸という社会的ニーズに理学療法士として応えるための基盤として、予防の観点から捉えた理学療法の現状や在り方について学ぶ。また、グループディスカッションを通して、健康寿命の延伸に寄与する科学研究の方法や可能性について考える。

到 達 目 標

1. 予防理学療法の定義と領域、関連法規について説明することができる
2. 予防に寄与する理学療法士の役割について理解する
3. 予防理学療法の将来について自身の考えを伝えることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと
事後学修：授業の内容について理解できるよう、整理しておくこと

対応	(DP1)	(DP2)	○ (DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	総論	予防理学療法の定義と関連法規、予防理学療法と地域社会、予防理学療法と医療	溝田勝彦
2	月 日	予防理学療法の役割	高齢期における予防理学療法①	溝田勝彦
3	月 日	予防理学療法の役割	高齢期における予防理学療法②	溝田勝彦
4	月 日	予防理学療法の役割	壮年期における予防理学療法①	溝田勝彦
5	月 日	予防理学療法の役割	壮年期における予防理学療法②	溝田勝彦
6	月 日	予防理学療法の役割	学童期・思春期における予防理学療法①	溝田勝彦
7	月 日	予防理学療法の役割	学童期・思春期における予防理学療法②	溝田勝彦
8	月 日	総括	コミュニティプロモーションと理学療法士の役割	溝田勝彦

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	1. 予防と産業の理学療法 (南江堂) 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月曜日 (11 時～12 時)・火、金曜日 (15 時～16 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	理学療法士として医療機関に 14 年勤務